

令和3年度第4回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

令和4年3月23日（水） 午後1時30分から3時15分まで

2 場所

東三河建設事務所5階A会議室

3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

4 会議内容

(1) 開会

(2) あいさつ（農業水産局農政部農業振興課 野生イノシシ対策室 小出室長）

- ・野生イノシシの豚熱の感染状況について、2021年10月に県内では約1年ぶりに豊田市で陽性個体が確認されて以降、7例確認されている。養豚場については、全国でも2021年12月以降は確認されていないが、昨年の春先に多く確認されており、まだ油断できない状況である。
- ・今回の協議会では、生息状況調査や効果的捕獲促進事業の結果報告等をさせていただくので、率直な意見をいただきたい。

(3) 議事（議長：野生イノシシ対策室 小出室長）

① イノシシ捕獲に係る取組状況について

- ・資料1、1-1、1-2に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・豊橋市、田原市ともに、2021年度のイノシシの捕獲数は、この5年間で最も少なく、豚熱による影響を受ける前の4～5割程度に減少している。
- ・捕獲個体のうち、成獣の割合は4割程度で、2020年度と比べると高くなっている。引き続き、成獣の捕獲が必要である。
- ・地区別にみると、田原市の大山山塊や、豊橋市北部では捕獲頭数が2019年度に比べ減少しているのに対し、表浜海岸沿いは横ばいで他の地区と異なる挙動を示している。

【質疑・意見等】

なし。

② イノシシ生息状況調査結果について

- ・ 資料2に基づき事務局から説明

【概要】

- ・ 生息頭数は、2021年度は、2020年度の同時期より増加していると推測されており、根絶に向けこれまで以上の捕獲が必要。
- ・ 有害鳥獣捕獲における箱わなのCPUE（捕獲効率）は前年度と比べ、減少している。ただし、このCPUEはわなが365日稼働したと仮定して算出された値なので、実情より低く算出されている可能性がある。
- ・ センサーカメラによる撮影頻度が高いが、捕獲が進んでいないエリアがあり、今後そういった場所での捕獲強化策を検討する必要がある。

【質疑・意見等】

なし。

③ 効果的捕獲促進事業の実施結果について

- ・ 資料3に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・ 低密度に分布するイノシシの効果的捕獲手法を検討・試行した。
- ・ 今年度は3つの手法について検討・試行した結果、捕獲実績は挙げられなかったが、各手法の課題は整理することができた。
- ・ 今後、見えてきた課題を改善していきたい。

【質疑・意見等】

(有識者) 検討された手法のうち、PIG BRIG TRAP SYSTEM（以下「ピッグブリッグ」という。）について、他県での事例では、うまくいっているよう。今回の事業では捕獲まで至らなかったが、どういった違いがあると考えているか。

(事務局) イノシシの警戒心の違いが一因だと考えている。

(有識者) 課題でも挙げられているが、長期的に誘引していくことが重要。改善していくごとに新たな課題が見えてくるので、適宜改善していく必要がある。

ピッグブリッグの設置場所について、他県等の事例を参考に、より効率的な設置場所を中心に検討していくといい。

(事務局) ピッグブリッグについて、事業が終了した後も、地元狩猟団体に管理されていると伺っているが、状況はどうか。

(狩猟連合田原) センサーカメラを設置し、様子を見ているが、イノシシは寄って来ていない。網の下をくぐることを学習している個体がいればピッグブリッグにも入ると思うが、箱わなについて学習したと見られる個体は、上方向を見てわなを警戒してしまい、中まで入らない。

大山地域ではイノシシの個体数が減少した結果、個体数当たりの餌が豊富となり、わざわざ山のふもとまで降りてこないと考えている。

追込猟もイノシシの寝屋がある所でやらないと意味がない。そのため、調査

のやり方と実施場所の検討が必要。

④今後の取組について

- ・資料4-1及び4-2に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・2021年度の取組結果と、2022年度の取組予定を報告
- ・今後、生息頭数が多くいると思われるが捕獲実績が挙がっていない場所での捕獲を進めるとともに、捕獲圧を維持するため、捕獲従事者のモチベーション維持に向けた対策が必要である。
- ・県内で野生イノシシの豚熱感染が確認された地域では、捕獲頭数が一旦減少した後、回復（増加）する傾向が見られる。2021年度の捕獲頭数は、2020年度と比べ、豊橋市、田原市では減少しているが、全県では増加する見込み。現在、渥美半島の捕獲頭数が減少している地区でも同様に個体数が増加する可能性があるため、引き続き捕獲が必要。
- ・渥美半島でのイノシシの捕獲根絶に向け、新たな捕獲手法の導入や戦略的な捕獲を実施するためには地元関係者の協力が不可欠。積極的な協力をお願いしたい。

【質疑・意見等】

(狩猟連合豊橋) 成獣の捕獲推進について、箱わなのトリガーの高さを調整するなど工夫はしているが、なかなか難しい。捕獲の報償金は、捕獲従事者のモチベーション維持のために必要。幼獣も1年も経過すると繁殖できるようになるので、個体数低減のための効果はあると思う。

(事務局) 岐阜大学の鈴木先生からも成獣を選択的に捕獲することが重要と強く指摘されているため、成獣の捕獲に努めていただきたい。限られた予算の中で、効果的に事業を進めるため、助成額については、成獣の額を維持することとなった。今後、生息状況調査の結果を地元捕獲従事者に共有したいと考えているが、他に捕獲従事者のモチベーション維持のため、要望があれば、検討させていただきたい。

(有識者) 成獣の捕獲を推進するためには、県で、成獣の捕獲手法の事例を収集し、捕獲従事者に情報共有していくことも必要だと思う。

今後の捕獲強化に向け、捕獲努力量の配分は重要だと思う。捕獲が進んでいない場所での捕獲について、県、市、狩猟団体等が連携して取り組んでいく必要がある。

また、捕獲頭数による生息状況の評価をするためには、捕獲努力量を正確に把握することが重要である。他県でも捕獲努力量を把握できている事例は少ないが、それにより渥美半島に限らず県全体のイノシシの個体数管理にも活用できるので、取り組んでいくべきだろう。

⑤その他

- ・有識者からイノシシのテレメトリー調査の経過について情報提供
- ・事務局からの連絡事項

【質疑・意見等】

(事務局) 今回把握したイノシシの行動圏について、比較的狭い範囲だったとのことだが、表浜地域は幅が狭い帯状の地域である。イノシシの行動圏が決まるのは面積と距離ではどちらの要素が大きいものか。

(有識者) 面積であると考えているが、餌資源など、他の要因とあわせて評価する必要がある。それもあるので、大山地域でも調査をやっていききたい。表浜地域の現地の状況はどうか。

(狩猟連合田原) 調査地では、ドングリ等の餌資源はどちらかというと少ないと思う。実際に、この付近の現場におけるわなの誘引餌の食いつきはよい。

調査地におけるイノシシの行動圏に影響する要因としては餌資源より水資源の方が大きいと思う。ここは、防風林を境に水の流れが分かれている。水資源の情報として、GISで防風林や砂防堰堤の位置情報があるのであれば、そういった情報を活用するといいいのでは。

また、近くに大きいイノシシの縄張りがあるようで、若い個体は追いやられて行動範囲が狭くなっていることも考えられる。

(事務局) イノシシの寝屋について、1箇所を毎回使用するものか、それとも複数箇所を転々と使用しているものか。

(有識者) データを見る限りでは複数箇所を利用しているよう。

(狩猟団体田原) 条件が揃っている場所であれば、その場所を好んで何度も使用する。

(狩猟団体豊橋) シダが多いところなど見通しが悪いところを寝屋として、好んで使用する。

追込猟について、人がだいぶ近づいたとしても、オスの大きい個体であれば、イノシシは気にせず動かないので、追い出しには狩猟犬等を使う方が効率的だと思う。